

大図書館の羊飼

a good librarian like a good shepherd

オーガスト
オフィシャルハンドブック
2012年春号



▲ AUGUST

P R E F A C E — ま え が き

こんにちは、オーガストです。

初めての方、はじめまして。何回目かの皆様、いつもご愛顧頂きありがとうございます。

昨年末のコミックマーケットで販売し、その後通販でも販売致しました「オーガスト10周年記念ボーカルCD」ですが、予想以上の好評を頂きました。特にLPレコード付きの限定版は、想定を遙かに上回るお客様にお買い上げ頂き、社内でも驚きの声が上がりました。(通常版より4000円も高かったので、レコードプレーヤーがまだ家にある方の割合はどれくらいで……という見積りをしたのですが、甘かったようです)

この場を借りて御礼申し上げます。お買い上げ頂いた皆様、ありがとうございました。

盤に溝を切るカッティングからプレスまで一貫製造しているアジア唯一のレコードメーカー、そして唯一のカッティング技術者の方に作って頂いたレコードです。なかなか難しい方もいらっしゃると思いますが、もし機会がありましたら、実際にアナログの音もお聴き頂ければ幸いです。

それでは、多少のお時間を拝借致しますが、オフィシャルハンドブックをお楽しみ下さい。

2012年春 オーガスト/ARIA 拝

CONTENTS

『緋翼のユースティア』Short Story

3 …… メルトの休日

7 …… オーガスト最新作『大図書館の羊飼』情報

10 …… スタッフ対談

11 …… あとがき



メルトの休日

榊原 拓

今宵も、ヴィノレタはいつも通りの活況を呈していた。

「あらーお久しぶりね。いらっしやい」
店主のメルトが、新たな客を迎える。

常連も、半常連も、一見の客も、皆が陽気に料理を頼張り、酒を胃に流し込んでいる。もちろん世の中楽しいことばかりじゃない。むしろ、辛いことの方が多い。

しかしこの店には、その辛いことも酒で流すために客が集まっている。だから、泣いてる奴がいても、怒ってる奴がいても、店の雰囲気は陽気になる。

それがヴィノレタだ。この雰囲気は、メルトの人徳によるものと言って過言ではない。

多くの客がメルトに会いに来ていようなものだった。

「今日も賑わってるようだな、メルト」
「あらカイクもいらっしやい。今日は早いのね」

「ジークに仕事の相談があったな。ここにいらして聞いてきたんだ」

「ええいるわ。ほら、あそこ」
見ると、カウンターの端でジークが旨そうに酒を飲んでる。

申し訳程度の肴と、古びた瓶。どうやら、ちよっといいい火酒を飲んでるよ

うだ。

「よう、どうしたジーク」

「カイクか。まあ前も一杯やれ」
口に含むと、冴えた香りと清澄な味わいが広がった。

これは、どこかで飲んだことがある酒だ。

「先代の好きだったやつだな」

「ああ。今日でちょうど六年だ」

「……そんなになるか」

牢獄を取り仕切る組織、不蝕金鎖。

その先代頭であったジークの親父さんが亡くなって、ジークが跡を継いだのが六年前。

いろいろあったが、何とか組織を再びまとめ直せたのはついやと先日のことだ。

「長いようで、あつという間だな」

「あつという間のように、長かった気もする」

器の残り少ない火酒を一気に呷り、ジークがメルトに声をかける。

「メルトも一杯どうだ」

「そうね……店を閉めたらいたたくわ」

いつもはすげなく断るメルトも、今日ばかりはいつもと違う返事だ。

ヴィノレタは、先代が死ぬ一年ほど前に、メルトに任せた店である。

それにメルト自身、先代に身請けされた元娼婦だ。

先代を思い起こす人間も年ごとに減っていく。

俺たちだって、普段思い出す機会は減っている。

だが、今日くらいは僥んでやろうじゃないか。

◆

閉店後。

カウンターに並んで掛ける俺とジークに、メルトが酌をし、ティアが肴を運んでくる。

「もう六年も経つのねえ」

「ああ」



「メルトがヴィノレタの主になってからは七年か」

「そうなるわね」

「へええ、長いんですね」
「そういえば。」

「……なあ。メルトって、店を休みにしたことあったっけ」

「私がこちらに来てからはありませんよね」

「そういう俺も見たこと無いな」
「さあ、どうだったかしら」

メルトが悪戯っぽく微笑む。

俺は、酒精が回った頭を必死に捻り、七年間の記憶を掘り返す。

……先代が死んで、先代の思いと共に店を守り抜くと誓ったメルト。

それからというもの、嵐の日も、祭の日も、羽狩りが来た日も、店で大暴れした馬鹿がいた日も、思えばヴィノレタが丸一日休みだった記憶は無い。

「休んでないだろメルト」

「かもね」

「気がつかなかったな。俺も組織の頭としてちやまだまだだ」

「そんなことないと思うけど」

「いや、決めた」

ジークが決然と立ち上がる。
「メルト、明日は休みだ。ヴィノレタは臨時休業。全責任は俺が持つ」

「ええーっ」

メルトは、楽しみに目を丸くした。

「おいジーク、急すぎないか」

「こういうのは思い立ったが吉日ってもんだ」

「生の食材が無駄になっちゃうわ。明日使い切って明後日でもいいかしら」

「ぐ……しょうがないな。ティア、お前も明後日は店には来なくていい。あと、他の給仕の子たちにも伝えてやってくれ」

「わ、わかりましたっ」

「もう、ジークったら強引なんだから」
こうして、ヴィノレタ初の臨時休業日が設けられることになった。

翌日、予定通り全ての日持ちのしない食材を使い切ったメルト。
更にその次の日の夜中の営業を終えたところで、カイクも立ち会い、店の扉を閉める。

「ふーっ、なんだか変な気分ね」

「そんなもんか」

背伸びをしてみせるメルト。

「おうどうしたメルト！ 今日のお勧めを頼むよ！」

そこに、何度も店で見かけたことがある、鼻の赤い常連客がやってきた。

「ごめんなさい、今日はお休みな」

「……えっ？」

「悪いな。今日はヴィノレタは休みなんだ。また明日にしてくれ」

「……いや、そりゃ……えええ？ 休みなんであんのかい」

「いろいろあってね。ほんとごめんなさい」
「そいつあ……まあ、仕方ねえけどよ……勝手に決めたがって、今日はもうここで食うつもりで来たのによ……」

常連客が、人混みの中へ去って行く。
メルトは心底申し訳なさそうな顔をしていた。

「やあメルトさん。今日も名物料理の林檎と杏子のキャラメルがけを食べに来たよ」

「ごめんなさい今日は実はお休みで……」
「なんだメルト、今日は呼び込みか？」

「いえ、今日は……」

「どうしたどうした、さっさと店に入ってくれよ。後ろがつかえてんだよ！」

徐々にヴィノレタの前の人混みは大きくなっていく。

これは埒が明かない。

そして何より、メルトが休めないようでは本末転倒だ。

「メルト！ ここは俺に任せて帰れ！」

「そういうわけにも……」
「いいから！」

半ば強引にメルトを人混みの中から引っぱり出し、背中を押して去らせる。

そして、客の不機嫌な視線を俺が一身に浴びることとなった。

☆

普段は娼館街の用心棒として。

それ以前は不蝕金鎖の殺し屋として。

数々の敵意ある目に睨まれてきた俺だったが、今日は勝手が違い、苦戦していた。

ヴィノレタの評判を落とすわけにはいかない。かと言って、メルトの休みは断固確保しなくてはいけない。

できることは、詰め寄る客に丁寧に話をするだけだったが、納得して、または渋々と帰る客よりも、新に店を取り囲む客の方が多いという有様だった。

「カイクさん！」
ティアだ。

「どうした、ティア」

「張り紙です。これを扉に貼ってみてはいかがでしょうか？」

「冴えてるぞ」

俺とティアは急いで店の扉に張り紙を打ち付ける。

内容は、ヴィノレタの臨時休業を告げるもの。明日は営業再開することも書いてある。

扉に貼り付けると、俺とティアはそそくさと物陰に隠れ、店を遠くから見守ることにした。

……文字を読めない客も多い。だが、何人か読める客がいれば、そこから話が拡がってくれることだろう。

期待して見つめる。

……。

「なんだこんなものあ！ どうらあ
あつー！」
ガンガンガンッ！！
酔っ払いが張り紙を破り捨て、扉を蹴飛ばし
始めた。
駄目か。
俺は溜息をついて、再び店の前に向かった。



「これはなんの騒ぎだカイルム。お前が騒動の
中心か？」
「フィオネ」
羽狩り隊の副隊長として牢獄を預かっている
フィオネに、騒ぎの事情を話して聞かせる。
「えっ、休み？ そうか……。鶏肉の葡萄酒
煮込みをいただこうと思つて来たのだが、
ふう……。休みか……」
騒ぎの收拾を手伝いに来たのかと思いきや、
がつくりと肩を落として帰っていく。

「得意のナイフでも出せばいいのに」
物騒なことを言いながら、次にエリスがやっ
てきた。
「そういう訳にもいかない。みなメルトの客
なんだ」
「あーら、そう。じゃ私も今度医者を休むか
ら。その時はカイルムが患者を捌いてね」
除のある言葉を残して去る。

「あら。お客様に林檎の丸焼きを頼まれてい
たのですけれど」
クローディアがいつもの調子でやってきた。
事情を説明するが、どうやら相当な上得意の
客らしく、このまま突っぱねるのはあまり良
くなさそうだ。

「ティア、お前メルトが作つてるのをいつも

見てただろ。うちの暖炉で似たようなものを
でっち上げて持っていけ！」
「わかりました！」

「おやおやおや、お困りのようですねカイルム
先生、手伝いましょーか？」
「リサか。お前は混乱させるだけだから帰れ。
とうるかさっさと客を見つけろ」
「きびしーっ」

「通りを歩けない。失せろ豚ども」
「こらアイリス！ 客を煽るな！」



夜が更けてきても、ヴィノレタの酒とメ
シを求めにやってくる客足は絶えなかつた。
「閉店したんだって！？」と誤解してくる客、
「メルトさんが体調を崩したんだって！？」
とデマを信じてくる客、
ああでもないこうでもない、いちいち説明
しなくてはならない。
しかも酒が入つてる奴の割合が増えてきてい
る。

これではキリが無かつた。
どうしたものか……

「お前ら、道を空けろ！」
騒がしかった人混みが、そこから波紋が拡が
るように静かになつていく。

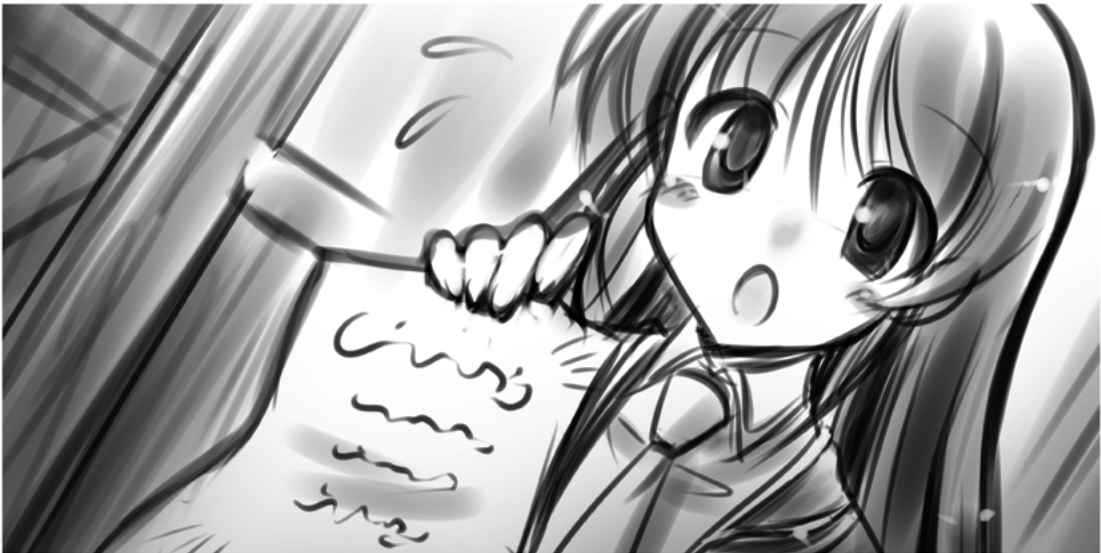
ジークだ。
さすが牢獄の王。
最近は無縁もついできたようで、先代に似て
きたなんて話もあるくらいだ。
……なんにせよ、これで騒ぎも収まるはず。

ジークが扉の前に立つ俺に近寄ってくる。

「んあ？」

「どうしたジーク」

「なんでヴィノレタが閉まつてるん
だつー！！」



おい。
滅茶苦茶酒臭い。

……駄目だ、こいつ相当酔ってやがる。

「おいこら、思い出せジーク」

「うるせえ離せっ！ おいメルトはどこだっ、どこなんだよ……メルトお」

暴れていたかと思ったら、扉にすがって泣き始めた。

ひどい酔っ払いだ。

「先代に似てきただっって？」

「どこがだ。貫禄の欠片も無い。」

もう放っておくか……とも思ったが、一度静まり返っていた客達が、また集まってきた。

しかも、こともあろうに、泣き崩れたジークの姿を見た常連客の周辺から、メルトが流行病で死んだという噂が広まり始めている。

「うう……ぐすっ……、メルト……」

「店を……店を、開けてくれよお……」

何人か泣いてる奴が出ると、俺が噂を消す間も無く立て続けにその数は増えていった。

泣きたいのはこっちだ。

かんかんかん！

ヴィノレタ前に響き渡る金属音。

集まっていた大勢の飲んだくれどもの目が、

仁王立ちするエブロン姿の主。

メルトだ。

フライパンを、肉切刀で力任せに叩いている。「あなたたち、何やってるの!？」

一喝、というには優しい口調。

皆一様にうなだれた。

……かと思ったら、すぐに全員がメルトを見て「良かった」「良かった」と今度は嬉し泣きを始めた。

メルトが、涙と鼻水でぐちゃぐちゃの顔をした常連客にもみくちゃにされている。

「もー、なんなのよっ」

俺も、その人混みをかき分けかき分け、メル

トに事情を話して聞かせた。

「メルトはどうやらティアが連れてきたらしい。」

「それじゃせっかくの休みが休みにならないだろ、ティア」

「ごめんなさい……でも」

ティアがメルトを見る。

「カイク、ティアちゃんを怒らないであげて」

「しかしだな」

「私は半日だけでも十分休んだし、ヴィノレタの前でこんな騒ぎが起きてると聞いたら

逆に心が休まらないもの。カイクとジークの

気持ちは十分受け取ったつもり」

「メルトがそう言うなら……」

「さ、それより手伝って。食材は少ないけど

店を開けるわ」

周囲が歓声に満たされる。

食材の調達から店内の灯り点けまで、常連客も一緒になって開店準備にとりかかった。

「じゃ、俺は今日は給仕をやるかな。ティアはメルトを手伝って料理だ」

「はいっ」

「ありがと、カイク、ティアちゃん」

店は、あつという間にいつも通りの喧噪に包

まれた。

嬉し泣きのまま寝てしまったジークは、何やら幸せそうにカウンターに突っ伏している。

メルトを丸一日休ませることができなかったのは心残りだが、やはりヴィノレタは賑やかな方がいい。

生き生きと客を捌くメルトを見ながら、俺は

そんなことを考えていた。

END



大図書館の羊飼

a good librarian like a good shepherd



オーガスト最新作 寄り道だらけの学園恋愛ADV

from STAFF

こんにちは、オーガストです。新作ソフト「大図書館の羊飼」の開発は順調に進行しており、そう遠くない時期に発売日等もお知らせできる見込みです。ご期待にお応えできる作品となるよう、スタッフ一同細心の注意をばらいつつ制作を進めて参ります。

さて今回は、前回のブックレットにてご案内しました通り、追加キャラクターのご紹介をさせて頂きたいと思っております。それぞれ、5人のメインヒロイン(白崎つぐみ・桜庭玉藻・御園千莉・鈴木佳奈・小太刀凧)に密接に関わることになるキャラクターです。ぜひ、ご覧くださいませ。

Ureshino Sayumi

嬉野紗弓実

第一食堂アプリオの看板ウェイトレス。鈴木先輩にして同僚です。

接客態度に優れており、「お人形さんのようでかわいい」と高い人気を誇っています。

彼女目当てにカフェテリアに通う生徒も多いとか。

仕事はできるのでバイト仲間からは頼りにされており、鈴木がよく懐いています。

一方で趣味はネットゲ。特に、オンラインFPSではスナイパーを担当しており、超人的な腕前です。

ネットワークやプログラミングには抜群の才能を持ち、情報工学を専攻しています。

[CV・真宮ゆず]



ミラム・ウェイトレス



鋼鉄の女生徒会長

Mochizuki Maho

望月真帆

汐美学園の生徒会長。理想主義的ですが、学内での支持率は非常に高いです。

彼女は「この学園は、生徒の能力を高めるために作られた。それを承知で入学したのだから、生徒も切磋琢磨すべき」という単純な正論を実現するために活動しています。

そのため当然本人も努力家であり、他者にもそれを求めることも。

主人公の寛京太郎を生徒会役員にスカウトしようと考えています。

[CV・波奈束風景]

大図書館の羊飼!

a good librarian like a good shepherd

from STAFF

オーガストは、学園を舞台にした作品をこれまでも複数制作して参りましたが、今作はその過去作品のいづれにも存在しなかったような、面白いキャラクターが揃いました。これは単純におもしろおかしいという意味に限らず、フトコロが深く底知れないという意味も含まれます。執筆が進むにつれ新しい一面が次々と現れ、制作している我々自身が彼女たちにぐいぐい惹かれていく有様です。完成時には一体どうなることでしょうか。

スタッフにもその潜在的魅力が計り知れないヒロインたちが活躍する『大図書館の羊飼!』、どうぞご期待頂ければ幸いです。

ちなみに、この(→)安定感のあるネコは「ギザ様」といい、部室でヒロインたちにしばしばセクハラ行為を働いています。こちらも意外な活躍がある、かもしれません。



スピリター越しのアイドル

Serizawa Miyu

芹沢水結

美声を以て知られている放送部の一年のホープ。

入部早々に校内アナウンスを担当するなど、早くも頭角を現しています。

また、彼女は声優としても活動を始めています。

既にいくつか仕事をしていることもあり、ファンも存在します。

なお御園千莉とは過去に何か一閃着あった模様。

【CV・朝倉鈴音】

オーガスト最新作、鋭意開発中。
どうぞご期待ください。

<http://august-soft.com/>

『大図書館の羊飼!』

対応機種：WindowsXP/Vista/7(32/64bit)

シナリオ：榊原拓・内田ヒロユキ・安西秀明 ほか

原画：べっかんこう

購入制限：18歳未満の方はご購入できません

発売時期：未定

榊原拓 (以下、榊) :さて今回も対談の時間がやってまいりました。

べっかんこう (以下、べ) :わー

榊:冬コミで販売した10周年記念CDが予想以上の人気でびっくりしましたね。

べ:でしたねー。皆さんそんなにレコードプレイヤー持っているんでしょうか?

榊:持ってないけど限定版だし買うという方も多くいらっしまったようで、完全にこちらの読み違いでした。

べ:僕もLPプレイヤーは持ってませんよ。

榊:うちには去年まであったんですが、廃棄してしまいました。まさか作ることになるうとは……。

べ:LDプレイヤーは持ってましたよね。

榊:そっちは壊れてしまいました。買い直すかどうか検討中です。

べ:最近はDVDやブルーレイで新しく出てたりしますからね。

榊:しかし買い直すのもちょっと悔しかったりして。

べ:画質は良くなってますよ。でもしばらくすると、今度はDVDが見れない世界が来るかも。

榊:それはそれで困るなあ。

べ:でもいつの間にかビデオも使わなくなりました。DVDも徐々に減っていくかもです。

榊:……考えてみれば、映像メディアにぶーぶー言ってますが、僕らの作ってるゲームだって似たような面がありますよ。

べ:確かに。古いゲームはOS的にプレイできなくなってしまう。

榊:ほとんどの方が夜明けやFAの初回版もWin7で問題なくプレイできる中、どうしても何人かのユーザーさんはサポート繰り返してもダメみたいで。

べ:そういう方がいるなら、僕らとしても「Windows7でも動きますよ!」と自信満々に売れませんね。Win7対応版は必要な気がします。

榊:むしろ映像ソフトよりこっちの方が移り変わりが早いかも。

べ:OSの問題ばかりは、MSIにベースを落としてもらわないと。

榊:過去のゲームもプレイしてもらいたいですからね。

べ:いやしかしあまり古いのはちょっと気恥ずかしいような。

榊:確かに。個人的にははにはに以前は恥ずかしいです。キャラは好きだし思い入れもあるんですが、どうしても技術的に稚拙な部分が多くて。

べ:ミントちゃんとか鼻血出るぞ。

榊:……えー、さて新作の開発状況はいかがですか。

べ:ぱっちりですよ。

榊:抽象的だ(笑) じゃあこっちはぱっちりで。

べ:あまり具体的なことも言えませんし。原画の話をするとうち絵は一段落して、もりもりイベントCGを描いてます。あとちょこちょこ版權絵を。

榊:こちらはプロットが大部分できあがって、本文も一部書き始めてます。

べ:そういえばコミックスの展開も始まりましたね。

榊:個人的には、大幅なキャラ違い以外は、作家様の解釈にある程度お任せしようと思ってます。

べ:完成品をいち早く見れるのが嬉しいです。各作家さんが頑張ってくださいるので、今後も楽しみですな。

榊:皆様もお楽しみに!



2012.4.19 22:10 社内にて

POSTSCRIPT - あとがき

オフィシャルハンドブックをお読み頂き、ありがとうございました。
お楽しみ頂けましたでしょうか。

さて新作『大図書館の羊飼』の開発ですが、今のところ（産みの苦しみはありながらも）順調に進んでいます。
具体的には、シナリオで言えば全体の構成、CGで言えばキャラクターや舞台のデザインなど、一番スケジュールが読めない部分はほぼ乗り越えたと言える状態になりました。
もちろん、まだまだ先は長いです。
実際のシナリオ・CGなどの制作はむしろこれからが本番。マラソンのように、遠くを見つめながらも一步一步進めていきたいと思えます。

また、オフィシャルウェブサイトや雑誌等でもご案内しております通り、早くも『大図書館の羊飼』のコミカライズが始まりました。
私たちがコミカライズの作家様に負けないよう本編を作り込んで参りますので、ご期待頂ければ幸いです。

それでは、今回はこの辺で。
今後ともオーガスト/ARIAをよろしく願い致します。

2012年春 オーガスト/ARIAスタッフ一同



オーガストオフィシャルハンドブック
2012年春号

※禁無断転載・無断複製

最新情報満載！
オフィシャルホームページにぜひお越し下さい！

<http://august-soft.com/>
<http://aria-soft.com/>

大図書館の羊飼！
a good librarian like a good shepherd



オーガストオフィシャルハンドブック
2012年春号

